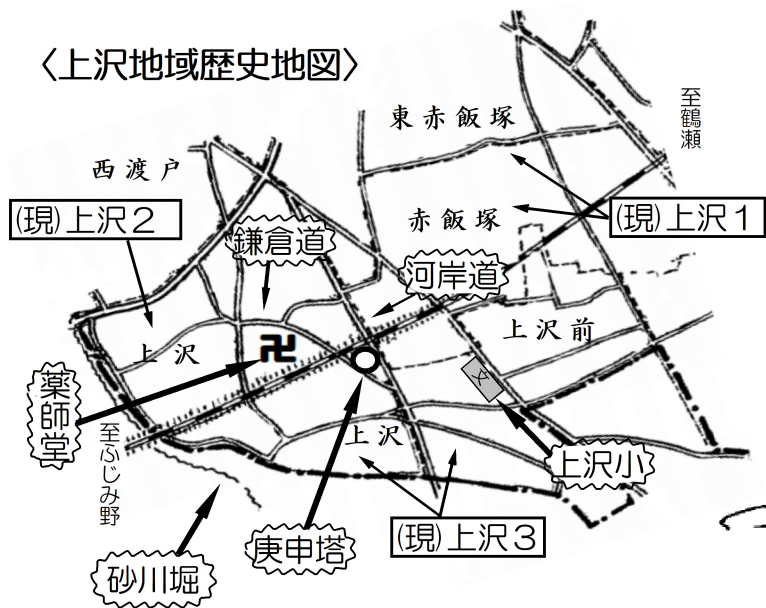


〈上沢地域歴史地図〉



上沢ものがたり

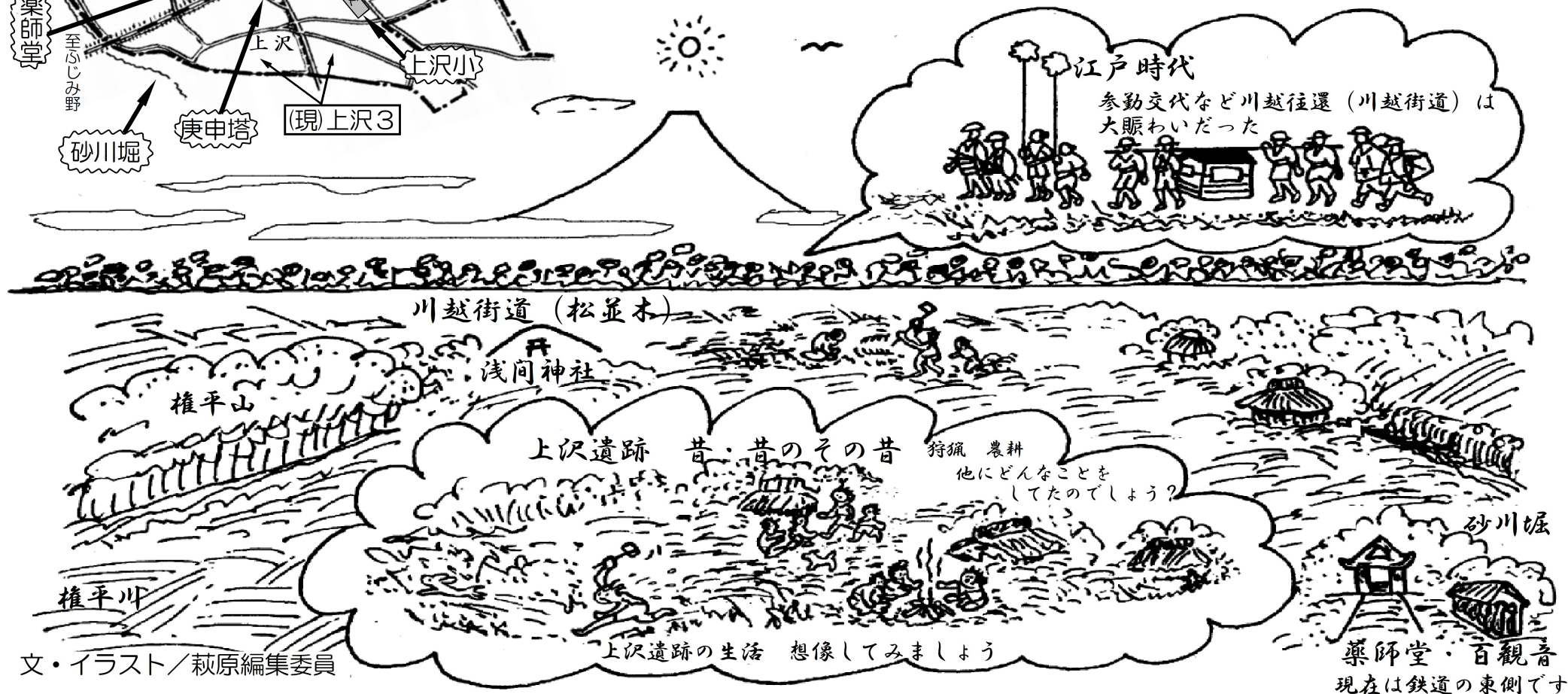
郷土を ふり返る



西地区は、下図のように、丸池、権平、ハケ上、富士山、名志久保、下郷、本目、節沢などの小字割がされていたときがありました。

今は公園等の名称に使用され残っているくらいで、あまり耳になくなりました。

どうしてその名前がつけられたのか、どんな風景が広がっていたのかと、郷土のむかしに興味をわいて、2018年12月号で丸池を、2019年3月号で権平山と9月号でハケ上を、今回第4弾として、上沢を取り上げることにしました。



文・イラスト/萩原編集委員



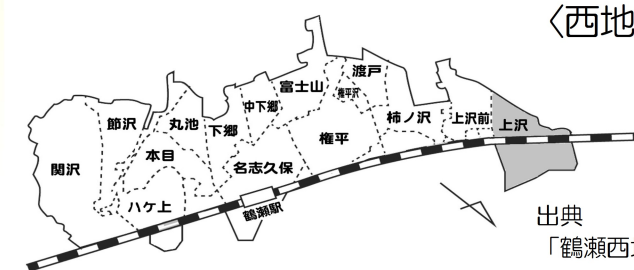
上沢庚申塔

像の足下に、見ざる、聞かざる、言わざるの三猿が刻まれている。こわい顔をして邪鬼を踏みつけている。旧河岸道と上沢薬師堂へ向かう道の分岐点にあり、上沢地区の鬼門除けの意味も込めて建立されたと伝えられている。今は住宅地になったため、難波田城公園に移されている。



上沢薬師堂の百観音

西国33か所、坂東33か所、秩父34か所と合わせて百観音札所を巡拝し終えたとき、寺々の本尊を石面に表し作られたもので、薬師、地藏、不動、観音といろいろな石仏が並んでいる。1869年に建立し終わったと石碑に記されている。



〈西地区の旧小字割〉

出典 「鶴瀬西地区のあゆみ」より

まず上沢といえは、「沢」が示すとおり湧水がありそうなものに見当たらない。市内には沢がついた7つの場所「七沢」があり、おおむね水源があります。

上沢の地形を見ると富士見市、三芳町、ふじみ野市との境界辺に弁天の森があり、その中を流れる砂川堀と呼ばれる流れを沢に結びつけ、その上という意味ではと推測してみました。砂川堀はやがて新河岸川へ合流します。

古地図上には、この辺りは「上沢遺跡」と記されています。通常、遺跡といえは何か痕跡がありそうに思いますが、土器がわずかに出ているだけで大昔の家の跡は見つかっていません。近辺からは、奈良時代の製鉄炉跡や炭焼き窯跡が見つかっています。上沢では燃料の木材を切り出していたのかもしれませんが。

それからずっと時が過ぎ、江戸時代になるとこの辺は平地でカヤが生い茂り野うさぎや野生の動物が野原を駆けまわっていました。サムライたちの猟の場所になっていたようです。時が経ち、畑作の農家が点在するようになり、薬師堂辺りから遠くに川越往還(現在の川越街道)がよく見えました。多くの参勤交代の行列が通った記録があり、当時は行列に遭遇するとその場で立ち止まり見送るお達しがあったようですが、この辺は距離もあるので手を休めずに鍬をふるっていたと思います。

晴れた日には富士山がきれいに見えました。それが富士見の地名に連なったのでしよう。富士見市の郷土史をみると新河岸川の舟運が東京と川越の中間である富士見に多くの文化を運んでくれたようでしたが、大正3年(1914年)に東上線が開通し富士見市近郊は大きく変わりました。そのとき上沢は東西に分かれ地域文化の中心だった薬師堂は鶴瀬東地区になってしまいました。

当時の記録によると鶴瀬駅は上沢1丁目とみられることになっていて、開通間際になって東京寄りに変わったという色とみたいです。そうなら今この景色はずいぶん変わっていったでしょうね。